

受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

- 1) カリキュラムの改正により、一連の考えを貫いた系統講義が出来るようになったことが、魅力ある講義ができるようになった第一の要素。その中で、教科書の内容を読み取る力をつけるための、より教科書の源流にある病態生理や、生理解剖学や、機能解剖学、臨床病理を一つの一連の概念として植え付けることに重きを置いた。
- 2) 臨床授業の場合は、授業の前半で、1例の症例呈示、病歴、理学所見、検査所見、特殊検査所見を、学生と共に思考しつつ、授業の後半で、必要不可欠な診断学の道筋・思考構造の構築、治療法の選択方法などの基本概念を教示した。
さらに、実際の治療法を動画を含めて、具体的かつ印象的に教示した。
- 3) 全般に、暗記ではなく、循環器学そのものをイメージできる基礎学力、基本判断力の養成に終始した。特に、重要な概念については、一連の系統講義中に、あらゆる角度から、何十回も解説を繰り返すことで、一種の常識としての考え方の定着を計った。
- 4) 教科書の内容は、あえて、自宅学習とし、教科書を理解するためのアタマの構造をつくることに、全ての配慮をおこなった。資料、スライド、授業の流れ（ストーリー）も、すべてオリジナルで作成し、Textからの切り貼りを用いていない。
- 5) 重要な部分に関しては、コンピュータによるスライド投影と、ipad 投影を利用した手書きのスクリーン板書を併用して、より理解しやすいように解説した。
- 6) 授業終了時に、その日の講義範囲における自習すべきテーマ、項目を、必ず、宿題として呈示し、その日の最重要ポイント、ならびに、修得しておくべき課題を明確に示した。

● 学生への要望・アドバイス等

- 1) 一連の系統講義中に、教科書、参考書を読み込む基礎能力・エッセンス、循環器病学に対する概念・センスを身につけ、自習にて、教科書の内容を読み流し納得しておくことが大切。
- 2) 一連の系統講義中に、病態生理および病態病理を理解し、期末試験前に個々の疾患の暗記すべき項目を知識として整理することが、より効率的、効果的であり、循環器病学を自分のものにできる。